

令和 8 年(2026 年) 第 1 回

登録標識・路面標示基幹技能者講習(標識)

修了試験問題

修了試験実施日：令和 8 年(2026 年)7 月 17 日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切りカバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から 30 分が経過するまで及び試験終了 10 分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約 1 週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和 8 年(2026 年)8 月 28 日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

【基幹技能者一般知識】

問 1

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 不測の事態の発生に対しても一生懸命に取り組み、指導者としての自覚をもって問題解決できる。
- ② 多くの理屈を言い立てるよりも、まず勇気を出して実行する方が説得力は大きい。人は後ろからついてくる。
- ③ 最良の結論を導き出すために、主観的な観点で、分析力、判断力を有し、物事の判断ができる能力を有する。
- ④ OJT を行う能力を有し、未熟練な作業から一般作業へレベルアップさせる調整能力を有する。

問 2

建設キャリアアップシステム(以下 CCUS という。)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① CCUS では、技能者の就業履歴や保有資格が IC カードを通じて蓄積され、技能者の能力を客観的に評価することができる。
- ② レベルの付与は、現場の状況や元請企業の判断によって、柔軟に決定して運用することができる。
- ③ CCUS における能力評価では、レベル 3 は職長・熟練技能者が目安とされ、一定の指導力や現場管理能力を備えた技能者として位置づけられる。
- ④ 登録基幹技能者は、能力評価基準の最高位であるレベル 4 の要件として扱われ、技能者の中でも特に高度な技能と経験を有する者として評価される。

問 3

コンプライアンス、法令遵守、OJT に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設産業が持続できるように、令和元年 6 月に建設業法が改正され、その内容は「著しく短い工期の禁止」「監理技術者の専任義務」「下請代金の支払方法」「主任技術者の配置義務の合理化」である。
- ② 発注者が、請負人に対して契約した仕事を完成することを約束し、完成された仕事に対して報酬を支払うことを約束して成立することが「請負契約」である。
- ③ 残業時間は、令和 6 年 4 月より、年間 360 時間、月 45 時間を上限とすることとなった。
- ④ 部下となる技能者が建設業や組織外の実態に触れて視野拡大する機会を設けるようにすることが望ましい。

問 4

労働安全衛生法、労働安全衛生施行令、労働安全衛生規則に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 労働者のために、工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置計画の作成は、統括安全衛生責任者の職務である。
- ② 玉掛け技能講習を修了していない者が、つり上げ荷重 1 トン以上の移動式クレーンの玉掛け作業を行わせ、つり荷が周辺作業員に激突し災害発生した場合、労働安全衛生法違反は問われない。
- ③ コンクリート造の工作物、高さが 5m 以上の解体又は破壊の作業は、作業主任者を選任すべき作業である。
- ④ 移動はしごは、損傷、腐食なく丈夫な構造とし、幅 30 cm 以上のすべり止め、転位措置を講ずること。

問 5

労働安全衛生法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 事業者の行うべき調査等で、建設物、ガス、粉塵等による、又は作業行動、業務に起因する危険性、有害性を調査し、その結果に基づいて、厚生労働省令で定めるところにより、都道府県知事が事業者、団体に対し指導、援助等を行うことができる。
- ② 労働者の健康を保持するため必要があると認めるときは、労働衛生指導医の意見に基づき厚生労働省令で定めるところにより、臨時の健康診断の実施その他必要な事項を示すことができる。
- ③ 危険又は有害な業務で、厚生労働省令で定めるものに労働者を就かせるときは、当該業務に関する安全、衛生のための特別の教育を行わなければならない。
- ④ 事業者は、クレーンの運転その他の業務で政令の定めるものについては、都道府県労働局の当該業務に係る免許を受けた者、又は技能講習を修了した者、厚生労働省令で定める資格を有する者でなければ、就かせてはならない。

問 6

元請負人の義務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 元請負人が請負代金の出来形部分に対する支払を受けたときは、当該支払い対象となった建設工事を施工した下請負人に対して、出来形部分に相応する下請代金を、当該支払を受けた日から 1 か月以内で、かつ、できる限り短い期間内に支払わなければならない。
- ② 元請負人は、下請負人が 500 万円以上～5000 万円に満たない工事の見積を行う場合、7 日以上の間を設けなければならない。
- ③ 元請負人は、前払金の支払いを受けたときは、下請負人に対して資材の購入、労働者の募集その他建設工事の着手に必要な費用を前払金として支払うよう適切な配慮をしなければならない。
- ④ 元請負人は、下請負人の請け負った建設工事を確認した後、下請負人が申し出たときは、特約がなされている場合を除き、直ちに、目的物の引渡しを受けなければならない。

【道路法・道路交通法】

問 7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路法は、道路網の整備、管理、構造、保全、維持等を定め、もって交通の発展に寄与し、公共の福祉を増進することを目的としている。
- ② 道路管理者は、交通の安全と円滑を図るために必要があると認めるときは、区間を定めて、もっぱら自転車の一般交通の用に供する道路の部分を供用開始前に指定することができる。
- ③ 重要物流道路は、貨物積載車両の能率的な運行の確保を図ることが特に重要と認められる道路である。
- ④ 道路標識及び区画線は、道路附属物として定められている。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公安委員会は、道路における危険を防止するため、交通の規制をすることができる。
- ② 公安委員会は、交通の安全と円滑を図るため、交通の規制をすることができる。
- ③ 公安委員会は、道路の構造を保全するため、交通の規制をすることができる。
- ④ 公安委員会は、交通公害を防止するため、交通の規制をすることができる。

【標識令改正・各種ガイドライン】

問 9

令和 6 年の標識令の改正で横断歩道標識設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 信号機のある横断歩道は横断歩道標識を省略できる。
- ② 単路部の横断歩道で、「横断歩道又は自転車横断帯あり(210)」の道路標示が設置されている場合は横断歩道標識を省略できる。
- ③ 交差点の入口に横断歩道がある場所の内側の横断歩道標識は省略できる。
- ④ 一時停止標識が設置されている横断歩道の横断歩道標識は省略できる。

問 10

令和 5 年の標識令の改正で特定小型原動機付自転車に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原動機付自転車は、特定小型原動機付自転車と一般原動機付自転車に区分される。
- ② 特定小型原動機付自転車は、最高速度など一定の基準に該当するものは、「特例特定小型原動機付自転車」となる。
- ③ 特例特定小型原動機付自転車とは、最高速度 20km/h 以下、緑色灯を点灯している場合である。
- ④ 規制標示「専用通行帯(109 の 6)」等の意味について、「軽車両」とあるのを「特定小型原動機付自転車及び軽車両」に変更した。

問 11

安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 自転車ピクトグラムは、進行方向に対して左向きとし、進行方向を示す矢印との組み合わせを標準とする。
- ② 車道混在とは、自転車と自動車が生道内で混在通行する道路をいう。
- ③ 車道混在の場合、矢羽根型路面表示と自転車のピクトグラムを設置するものとする。
- ④ 法定外表示のピクトグラムは、車道混在のみに設置する。

問 12

施工計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工計画の作成では、発注者の要求する品質を確保するとともに、安全を最優先とした施工を基本とする。
- ② 施工管理は、品質・原価・工程・安全、環境保全に対する管理方法を総合的に計画し、工事を進めるための管理活動である。
- ③ 施工管理では、施工過程で品質が作り込まれるという特性を踏まえ、計画段階から品質確保のための管理を行うことが重要である。
- ④ 施工計画では、PDCA サイクルを適切に運用するため、当初の計画通り行うことが基本とされる。

問 13

作業手順書に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業手順書は、責任者が作業手順を徹底的に書き込み、自ら実践するためのものである。
- ② 作業手順書は、新入社員や未熟練作業員に安全で正確に早く教えるために必要なものである。
- ③ 作業手順書の作成上の留意点は、現場の実情に合ったもの、法令に違反していないこと等を留意する。
- ④ 作業手順書は、作業上の手戻り、不具合や作業中の事故・労働災害が発生した場合には、速やかに改善し、定期的に見直すことも必要である。

問 14

環境保全に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設工事に伴う生活環境の保全対策は、騒音規制法、振動規制法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法等により規制されている。
- ② 振動規制法及び騒音規制法により、特定建設工事を施工する者は、作業開始する日の 7 日前までに、「特定建設作業実施届出書」を都道府県知事に届け出なければならない。
- ③ 工事の作業時間は影響の少ない時間帯とし、夜間、早朝の作業を避けるなど作業工程の設定を行う。
- ④ 登録基幹技能者は元請会社と協力して振動・騒音の発生抑制に努めなければならない。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① ガントチャートは達成度を示すため、各作業の必要日数や工期に影響する作業は分からない。
- ② ネットワーク式工程表は、出来高の累計を積み上げて工事全体の進捗を示す工程表である。
- ③ バーチャートは作業の流れが視覚的に分かるが、工期に影響する重要作業(クリティカルパス)は判断が難しい。
- ④ 出来高累計曲線(S字カーブ)は、予定と実績の差異を把握できるが、作業間の相互関係は分からない。

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価管理のスタートは、発注者と契約するために見積書を作成することである。
- ② 建設工事では、材料費、労務費、経費、外注費の 4 原価要素である。
- ③ 実行予算は工種や工程ごとに分類せず、工事全体を一括で取りまとめることで、発注や管理を簡素化できる。
- ④ 実行予算は、自らが施工するにあたり原価管理を行うために作成するものである。

問 17

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「実行予算」(工事予算ともいう)は、受注後に各種の具体的な施工計画を立て、その工事を実行するのに必要な費用をできるだけ精密に予測・算出して作成する。
- ② 土工事の見積では、土量は縦×横×深さで、土の積込み土量を計算するが、土量の変化率は留意する必要はない。
- ③ 予算実績管理は、実行予算と実績原価を比較しながら差異を把握し、目標利益を達成することが困難な場合は原価低減の活動を実行する。
- ④ 元請負人及び下請負人は、見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保することが必要である。

【品質管理】

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 設計品質は「ねらいの品質」であり、設計段階で定められる。
- ② 性能規定とは、施工方法や使用材料を詳細に指定することで、求める品質を確実に実現することを目的としている。
- ③ 施工品質は、設計品質を施工の実態やコストを考慮し、無理なく実現できるように施工者が決定する。
- ④ 設計品質と施工品質は、設計者と施工者が別組織であることを前提としつつ、最終的な製品の品質確保に向けて内容が整合している必要がある。

【安全管理】

問 19

熱中症予防対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業時間対策では、高温多湿の作業場所において連続作業の場合は作業時間を短縮する。
- ② 脱水症状は自覚症状以上に進行する場合がある。自覚症状に関わらず定期的な水分・塩分補給摂取を指導する。
- ③ 作業中の巡視においては、作業前・中・後に水分補給等の確認を行えば巡視は頻繁に行う必要は無い。
- ④ 梅雨から夏季へは熱への順化期間を設けることが望ましい。作業員は熱に順化していないことから注意する必要がある。

問 20

リスクアセスメントに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① リスクアセスメントの実施により、予防の安全管理や自主的な安全活動ができるようになる。
- ② リスクアセスメントを実施する時期は、足場や機械設備などの設置・変更時、作業標準や作業手順などの作成・変更時などの際に実施する。
- ③ リスクの大きさは、災害発生の可能性と災害の重大性を点数化して算出する。
- ④ リスクの低減措置を検討するにあたっては、
 - ① 個人用保護具の使用
 - ② 安全対策を講じる必要のある危険作業の廃止や変更、安全な施工方法への変更
 - ③ ガードや安全装置などの工学的な対策
 - ④ 立ち入り禁止措置や教育訓練、共同作業などの管理的対策の順で検討する。

問 21

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標識令とは、「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」のことをいう。
- ② 道路標識は、案内標識、警戒標識、規制標識及び指示標識並びに補助標識に分類され、交通状況に応じた案内・注意喚起・指導用の看板類も道路標識に含まれる。
- ③ 道路標識の設置は、道路管理者については「道路標識設置基準」、公安委員会については「交通規制基準」が代表的な設置指針として設けられている。
- ④ 道路標識の設置については、道路法及び道路交通法の規定に基づき行われる。

問 22

案内標識の整備水準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 主要幹線道路同士が交差する交差点では、予告案内標識・交差点案内標識・確認案内標識のすべてを設置すべきである。
- ② 幹線道路と補助幹線道路が交差する場合、予告案内標識は必要に応じて設置するものとされている。
- ③ 補助幹線道路の交差点では、交差点案内標識として 108 系統の他に「方面、方向及び距離(105-A・B・C)」を状況に応じ設置できる。
- ④ 補助幹線道路と補助幹線道路が交差する場合、交差点案内標識は必要に応じて設置し、確認案内標識は状況に応じて省略できる

問 23

経路案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 主要幹線道路・幹線道路における予告・交差点標識の直進方向目標地は、原則 1 地名表示とする。
- ② 予告案内標識(108-A・B)は、原則として交差点の手前 300m 以内の地点に設置する。
- ③ 交差点案内標識(108 の 2-A)は、原則として交差点の手前 150m 以内の地点に設置する。
- ④ 幹線道路の交差点には、判読性の観点から 105 系統よりも 108 系統をできるだけ設置することが望ましい。

問 24

地点案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「著名地点(114-B)」は、歩行者用の標識として歩道上に設置され、案内する施設としては、歩行者が一般的に歩く距離を考慮して約 1,000m の範囲内とするのがよい。
- ② 都府県境界に「市町村(101)」と「都府県(102-A)」の標識を設置する場合、1 枚の標示板に集約して設置することができる。
- ③ 「著名地点(114-A・B)」に英語併用表示する場合、普通名詞については英語に訳して、施設固有の英語名称があればその名称を用いて表記する。
- ④ 「市町村(101)」標識の市区町村名の後には必ず“市”“区”“町”“村”の文字を記入し、英語については、判読性を良くするために、つづりを適宜短く略することができる。

問 25

案内標識の目標地に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 案内標識に用いる目標地としては、第Ⅰランク地名のうち最も近い地名を表示することを原則とする。
- ② 案内標識に表示される目標地のうち地域を対象とした地名は、重要地、主要地、一般地に分類される。
- ③ 政令指定市や県庁所在地は主要地に分類される。
- ④ 道路の分類で上位路線と下位路線が重複している場合、原則として上位路線の案内を優先させる。

問 26

高速道路等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 高速道路等(NEXCO)の標識に用いる文字のうち和文の書体は「ヒラギノ角ゴシック体 W5」をベースとした加工書体を使用する。
- ② 高速道路が交差、分岐するジャンクションの予告標識「車線指定」の表示方法は、上向き矢印で車線を指定し目標地点を表示する。
- ③ 「高速道路番号(118の3)」は、路線名称の文字高に合わせて、拡大又は縮小して表示するが、縦横比は変更しない。
- ④ 一般道路上の案内標識においても高速道路の路線番号を表示できる。

問 27

警戒標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「踏切あり(207-B)」は、踏切の前に設置するものであるが、警報機がある踏切では設置を省くことができる。
- ② 道路の縦断形状の予告「上り急勾配あり(212 の 3)」は、設計速度に定められた縦断道路勾配を超える場合、設置しなければならない。
- ③ 警戒標識の過度の設置はかえって警告効果を弱めるだけでなく、標識乱立の一因ともなるので、適正な設置計画を立てることが重要である。
- ④ スピードの出やすい区間で滑りやすくブレーキをかけることが危険な場所には「すべりやすい(209)」を設置する。

【規制・警戒標識の設置】

問 28

規制・指示標識の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路の区間を定めて交通規制を行う場合における区間内標識の設置間隔は、駐車関係及び速度規制を除き、原則として交差点ごとに設置する。
- ② 速度規制の区間内標識において、道路標識と道路標示を併せて設置する場合には、できるだけ双方が交互となるように設置する。
- ③ 隣接する都府県にまたがって同一種類の規制が連続する場合には、一方の都府県側の規制に係る始点標識及び他方の都府県側の規制に係る終点標識を設置する。
- ④ 交差点間隔が長く、区間内で規制の意味が判然としなくなるおそれがある場合は、特定のものを除き、設置間隔がおおむね 1.0km を超えない範囲で区間内標識を設置する

問 29

規制・指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 区間内標識と終点標識、始点標識と終点標識は、同一面においてできる限り併設しないこととし、やむを得ず併設する場合は、標識柱の上下に取り付ける。
- ② 道路標識の併設枚数は本標識板及び補助標識板を合わせて同一面において 4 枚以内とし、補助標識「始まり(505-A)」や「区間内(506)」はこの枚数に含まない。
- ③ 「最高速度(323)」及び「特定の種類の車両の最高速度(323 の 2)」は速度の高いものを先順位(上位)とする。
- ④ 「歩行者横断禁止(332)」及び「安全地帯(408)」は原則として単独で設置する。

問 30

規制標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「歩行者横断禁止(332)」を中央分離帯に設置する場合は、おおむね 50m の間隔をおいて設置する。
- ② 「転回禁止(313)」を中央分離帯の開口部に設置する場合は、原則として当該開口部の直前に設置する。
- ③ 「指定方向外進行禁止(311-A～F)」の標示板に表示する進行方向の数は原則 5 までとする。
- ④ 「専用通行帯(327 の 4)」(普通自転車専用通行帯を除く)の本標識の標示板に対象車両を文字で表示する場合、対象車両の名称は原則として 4 字以内、対象車両の種類は 3(行)以内とする。

問 31

規制標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「駐車可(403)」は、区間内には補助標識「区間内(506)」を附置しない。
- ② 「駐車禁止(316)」標識は、駐車を禁止する区間の前面及び区間内の必要な地点の左側路端に設置する。
- ③ 「一時停止(330-A・B)」の設置方法として、道路標示等による停止線が設けられている場合の道路標識の設置位置は、同一地点又は停止線の手前を原則とし、やむを得ない場合は道路標識を停止線の前後に設置することができる。
- ④ 「環状の交差点における右周り通行(327の10)」標識は、右回り通行すべき交差点の手前の必要な地点の左側の路端、交差点の手前0～10mに設置する。

問 32

指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「横断歩道(407-B)」は、主として保育所、幼稚園、小学校等の付近に設けられる横断歩道及び主として学童、園児の通学、通園のため利用される横断歩道に設置する。
- ② 横断歩道を設ける場合には、信号機がある場合は、「横断歩道(407-A・B)」を設置せず道路標示「横断歩道(201)」のみを設置する。
- ③ 「横断歩道(407-A・B)」の設置にあたり、一方通行路において右側の路端に設置する場合には、記号が左向きのものを設置する。
- ④ 自転車横断帯の設置にあたり、横断歩道と近接している場合、「横断歩道(407-A・B)」と「自転車横断帯(407の2)」を併設する。

問 33

補助標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「規制理由(510の2)」は原則として規制対象、規制時間、規制区間等を表示した補助標識とは別に最下段に附置する。
- ② 「終わり(507-C)」は本板の上方に附置するものとし、終点標識と他の始点、区間標識とは上下に併設する。
- ③ 1つの補助板に2以上の表示を行う場合、表示の順序は上から「車両の種類」、「日・時間」、「距離・区域又は区間」で表示する。
- ④ 補助標識の1行の文字数は7文字までとし、行数は3行までとする。

【標識の維持管理】

問 34

道路標識の設計に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の構造設計に用いる主な荷重には固定荷重(自重)・風荷重・雪荷重等があり、設置地域の気象条件を考慮する必要がある。
- ② 道路標識の基礎は、土中埋込み式基礎(根かせ式)、縦長剛体基礎、杭基礎の3形式である。
- ③ 風荷重の設計風速は、原則として路側式 40m/sec・片持式 50m/sec とし、て計算する。
- ④ 路側式標識などの小型標識では、土中埋め込み基礎や縦長剛体基礎が用いられている。

問 35

道路標識の構造に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 梁とフランジプレートの溶接は、溶接強度を上げるためフランジプレート裏側の鋼管部分も溶接を行う。
- ② 露出柱脚は、点検や支柱更新が容易となり、疲労に強い構造である。
- ③ 根巻コンクリートでは、支柱への滞水を防止するため水勾配を付ける必要がある。
- ④ 片持式やトラス形式の門型では梁と柱を接合するフランジ継手と箱型構造の門型標識の梁の場合は摩擦接合が用いられている。

問 36

道路標識の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の点検は、門型標識においては 5 年に 1 回の中間点検を実施し、10 年に 1 回の詳細点検を行うように定められている。
- ② 通常点検とは、附属物の損傷の原因となる大きな揺れ、大きな変形及び異常を発見することを目的に、道路の通常巡回を行う際に実施する点検をいう。
- ③ 初期点検とは、附属物設置後又は附属物の仕様変更等が行われた場合の比較的早い時期に発生しやすい損傷・異常を、早期に発見するために行う点検をいう。
- ④ 異常時点検とは、点検が必要とされる附属物を対象に、地震、台風、集中豪雨、豪雪などの異常時に、必要に応じて災害の種別等に応じた適切な方法により行うものである。

問 37

小規模附属物の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 対象とする設置方式には片持式と路側式があり、高所に設置された路側式は片持式に分類される。
- ② 片持式の間点検は、近接目視によることを基本とし、必要に応じて打音、触診を含む非破壊調査等を併用して行う。
- ③ 路側式の点検方法は、巡視時にパトロール車内から目視を基本として、変状の有無を点検する。
- ④ 片持式の診断は、点検部位ごと、変状内容ごとの対策の要否について、判定を行う。

問 38

道路標識の腐食に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 孔食は、板厚の薄い部材で発生しやすく、施工時の傷を補修しない場合に発生しやすい。
- ② 鋼材の腐食にはミクロセル腐食とマクロセル腐食があり、ミクロセル腐食は局部的に激しい腐食が発生する。
- ③ 基礎上面が露出している場合は、ベースプレートと基礎の隙間に滞水しアンカーボルトの腐食が発生しやすい。
- ④ 一般的な鋼材にステンレス製のボルトを使用した場合、鋼材側が集中的に腐食する。

問 39

道路標識の損傷状況の把握と診断に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 門型横梁トラスでは、風荷重により溶接部に亀裂が発生しやすい。
- ② 標識板の重ね貼り箇所にブラインドリベットを使用している場合は板替え等の検討が必要である。
- ③ 電気設備用開口部を母材に設ける場合は、角を直角ではなく 25R 程度の円弧を設けた形状としなければならない。
- ④ 道路標識柱については、支柱基部や梁・柱仕口部等の疲労による亀裂が発生しやすい。

問 40

道路標識の変状と対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 高力ボルトで、ゆるみが発生している場合は、ボルト交換を行う必要がある。
- ② リブ溶接部における疲労亀裂の対策は、柱材の細長比を 200 以下とすることが有効である。
- ③ アンカーボルトが破断した場合は、あと施工アンカーにより破断したアンカーボルトの取替えが必要となる。
- ④ 精密調査を実施する場合は、板厚測定、浸透探傷試験ともに有資格者による測定を実施しなければならない。

問題は以上です

登録標識・路面標示基幹技能者講習 解答用紙

点

受講 番号		氏名	
----------	--	----	--

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
3	2	1	2

【建設業法・安衛法】

5	6
1	2

【道路法・道路交通法】

7	8
4	3

/8

【標識令改正】

9	10	11
2	3	4

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
4	1	2	2

/7

【原価管理】

16	17
3	2

【品質管理】

18
2

【安全管理】

19	20
3	4

/5

共通 合計

/20

【案内・警戒標識の設置】

21	22	23	24	25	26	27
2	4	1	2	3	2	1

/7

【規制・指示標識の設置】

28	29	30	31	32	33
3	1	3	1	4	2

/6

【標識の設計・製作】

34	35
2	2

【標識の維持管理】

36	37	38	39	40
1	2	2	1	3

/7

専門 合計

/20